

葉は、小豆あずきの葉は、小角豆ささげの葉は、芋いもの落おち

葉など、むざと捨候義すてぎは、もつたいなき

事に候

一家主いえぬし・子供こども・下人等迄げにんとうまで、不斷はなるほど疏飯ふだん

をくうべし、但田畠ただしたはたおこし、田を植稻じぶんを

刈かり一入ひとしおほねおり申す時分ときわけは、不斷より少し食た物ものをよくつかまつり、沢山たくさんにくわせ遣つかい

★もつたいなき（勿体なき・惜しい、残念、不届きな）

下人げにん（奉公人、使用人）

不斷ふだん（日頃、平常）

一入ひとしお（ひときわ、一段と）

申すべく候、其心付そのこころつきあれば、精せいを出す

ものニ候事

一何なにとぞいたし、牛馬うしうまのよきを持候もちよう

に仕るべし、能牛馬程よきほどこえを多く

ふむものに候、身上おおならざるものには

是非ぜひにおよばず、まづ、かくのごとく

こころがけ申すべく候、ならびに

★心付（こころつき・注意すること、気を配ること）

何とぞいたし（何卒いたし・どうかして、なんとかして）